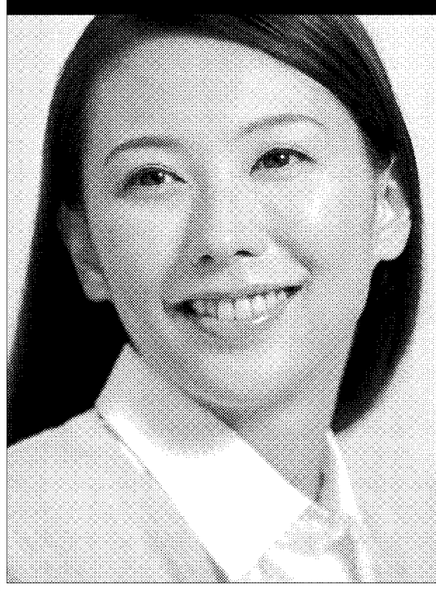
「子宮内膜症」治療に新たな選択肢を



ご存じですか？ いま、「子宮内膜症」は治療の選択肢が拡がり、「子宮内膜症」による月経痛などの痛みを緩和させる薬のほか、病巣に直接作用し、症状を軽減させる薬などがあります。発症すると、閉経まで長い期間つきあっていく「子宮内膜症」。仕事・結婚・妊娠・出産・育児など、あなたのライフステージや生活スタイルに合わせて、医師とともに最適な治療方法を選びましょう。

持田製薬では、「子宮内膜症」をはじめ「産婦人科」領域の疾患において、独創的な新薬の研究開発に真摯に取り組み、医師や患者さんに新たな治療の選択肢を提供しています。私たちはこれからも社是「先見的独創と研究」を掲げ、医療の発展に貢献してまいります。

持田製薬株式会社
東京都新宿区四谷1丁目7番地
電話(03)3358-7211(代) 〒160-8515
MOCHIDA

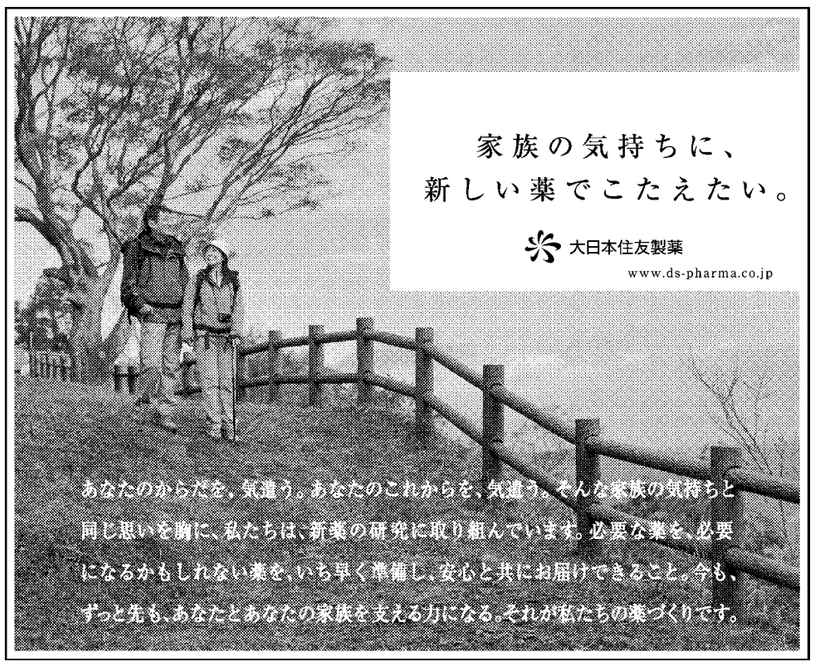
Bayer HealthCare

早く治ってほしいという
願いを、チカラに。

未だ適切な治療法が確立していない疾病の数は
2万以上とも言われています。
さらに、治療は可能でも早期に診断がつきにくい、
治療や検査が決して楽ではない、一般に理解されにくいなど、
医療分野にはまだ満たされていないニーズがあります。
私たちバイエル薬品は、「早く治ってほしい」という
強い思いを原動力として、
さまざまなニーズに応えていきます。
よりよい暮らしのために、これからもずっと。

Science For A Better Life
よりよい暮らしのためのサイエンス

http://byl.bayer.co.jp/　バイエル薬品株式会社



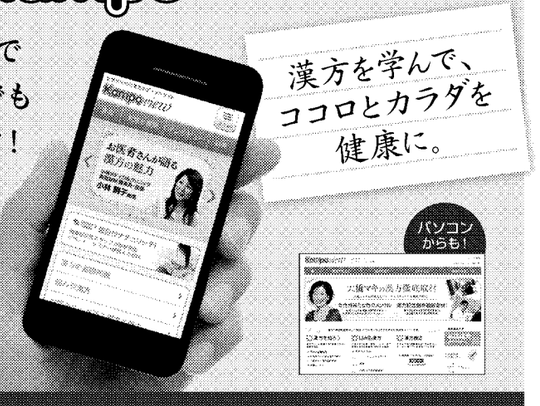
Global　世界の最先端技術をもとに日本でも
医薬品開発に努め実績を築いていきます。

医療の「A」から「Z」まで。　AstraZeneca
アストラゼネカ

http://www.astrazeneca.co.jp/　アストラゼネカ株式会社

女性のための漢方のポータルサイト
Kampo view

スマートフォンで
いつでもどこでも
気軽にチェック！



漢方を学んで、
ココロとカラダを
健康に。

携帯電話はこちら
www.kampo-view.com/m/
パソコンからも！

www.kampo-view.com　漢方ビュー　検索
運営：漢方ビュー事務局／協賛：株式会社ツムラ

薬価基準改正の経緯

改正年月日	収載品目数	引き上げ率(%)	
		薬剤費ベース	医療費ベース
1967.10.1	6,831	10.2	—
69.1.1	6,874	5.6	2.4
70.8.1	7,176	3.0	1.3
72.2.1	7,236	3.9	1.7
74.2.1	7,119	3.4	1.5
77.1.1	6,891	1.55	0.4
78.2.1	13,654	5.8	2.0
81.6.1	12,881	18.6	6.1
83.1.1	16,100(3,076)	4.9	1.5
84.3.1	13,471	16.6	5.1
85.3.1	14,946(5,385)	6.0	1.9
86.4.1	15,166(6,587)	5.1	1.5
88.4.1	13,636	10.2	2.9
89.4.1	13,713	△2.4(引き上げ)	△0.65(引き上げ)
90.4.1	13,352	9.2	2.7
92.4.1	13,573	8.1	2.4
94.4.1	13,375	6.6	2.0
96.4.1	12,869	6.8	2.6
97.4.1	11,974	4.4	1.27
98.4.1	11,692	9.7	2.7
2000.4.1	11,287	7.0	1.6
02.4.1	11,191	6.3	1.3
04.4.1	11,993	4.2	0.9
06.4.1	13,311	6.7	1.6
08.4.1	14,359	5.2	1.1
10.4.1	15,455	5.75	1.23

注：収載品目数の（）内は改正対象品目数を示す。
89年は消費税導入に伴う全面改正。

（アステラス製薬の資料から作成）

市場拡大再算定の追加

業界団体、「逆行」と反対

市場拡大再算定の追加ルールも、12年度薬価改定の大きなトピックスだ。これまでは、当該医薬品の市場規模（年間予想販売額）が当初予想の2倍になり、さらに薬価ベースの年間売上高が150億円超となった場合、薬価を追加で引き下げる市場拡大再算定ルールが適用されている。

今回、これに加え、類似の薬がないために原価計算方式で算定された医薬品については、市場規模が当初予測の10倍かつ100億円を超えた場合にも市場拡大再算定の対象となり、最大25%分の薬価引き下げとなる。これらの対象となった薬は、長期収載品の追加引き下げ対象からは除外される。

この追加措置について、日本製薬団体連合会など製薬業界団体は反対の声を上げている。「イノベーションを推進するという立場と逆行している。にわかに信じがたい」（業界団体首脳）と中医協でのヒアリングでも強く抵抗する意見を述べている。

【薬価とは】

薬価とは医薬品の値段のこと。公定価格。医療機関が処方する医薬品の費用を計算する基準となる。つまり、医薬品は国（厚生労働省）が価格を決めて、「薬価基準」と呼ばれる価格表に載せる。これを薬価収載という。医薬品は1錠や用量（1ミリグラムなど）といった単位あたりで価格を決める。

薬価基準に載っている医薬品は11年度で飲み薬（内用薬）が9397品目、注射薬は4317品目あった。外用薬などを含めた全体では1万6631品目。1970年度と比べて2倍強に増えている。

薬価は原則として2年ごとに見直される。医療費抑制策の一環であり、新年度の4月に全面改定される。その際、医薬品の卸売業者が医療機関に対して販売している価格と薬価の差（薬価差益）が参考とされ、薬価の引き下げ幅を調整している。

東日本大震災被災地への支援

東日本大震災の発生直後、製薬企業の対応は素早かった。被災地で医薬品が不足しないよう、十分な供給量を緊急搬送。工場が被災したメーカーは医薬品の欠品という危機的状況を回避するため、ほかの工場から人材を送り復旧に取り組んだ。また、社員医師の派遣、支援物資の輸送、義援金の寄付、社員のボランティアなども行う中で、製薬企業だからこそできる支援がある。

心のケア 医師派遣

講演会・冊子で情報提供

災害による生命危機ストレスが重なると、外傷後ストレス障害（PTSD）やうつ病などの精神障害が発症しやすくなる。精神障害が発症してから治療を始めても3、4カ月、治療しないと4、5年かかるケースもある。トラウマ体験の直後には早めに精神科医の治療を受ける必要がある。

しかし、専門性が強いPTSDの治療ができる医師の数は少ない上に、今回の震災では被害を受けた人数が多く、精神科医だけではフォローできない。もともと、東北地方に精神科医は少なく、被災者の精神状態を診られる環境が整っていなかった。

そこで、ファイザーは日本トラウマティック・ストレス学会と協力し、被災地に精神科医を派遣する「こころのケア支援プロジェクト」の展開を決めた。

東北地域の人々は我慢強く、まわりに自分の気持ちを訴えない気質があるとされる。また、がれきの撤去が続く中で葬儀といった喪のプロセスが満足に行えないことで、感情の整理が進まない状況がより深い傷となる。悲嘆、喪失感といった感情を蓄積させず、少しずつ外へ発散させるために、被災者の話を聞く「傾聴者」の存在が求められている。

ただ精神科医を派遣するのではなく、被災地で働く医療従事者の育成を行うことが広い範囲での治療を可能にする効率的な手段と判断。現場のニーズに即したテーマでの講演の開催を始めた。2011年7月下旬に岩手県釜石市で第1回講演会を開き、約120人の医療従事者が集まった。薬剤師や歯科医など、幅広い医療従事者が講演に耳を傾けた。また、参加者や避難所にはPTSDについてのカタログを配布している。梅田一郎社長は「ニーズがなくなったときがゴール」と言い、今後、この支援を2、3年継続させる考えだ。

塩野義製薬は震災から2日後には心のケアについて支援すると決めた。1995年の阪神・淡路大震災を経験した企業だからこそ、スピードの重要性を知っていた。すぐに阪神・淡路大震災でたくさんの患者を診た神戸赤十字病院の村上典子医師に連絡を取り、村上医師監修のハンドブック「阪神・淡路大震災等の大災害に学ぶ心のケア」を2万部作成。子供や高齢者、自衛隊や消防隊などの二次被災者などの傾聴の対象者ごとに対応ポイントをまとめた。

被災地だけでなく、全国にいる二次被災者や避難・移転先の被災者などにも心のケアが必要と判断し、医薬情報担当者（MR）を通じて国内各地の病院、診療所などに配布。塩野義製薬製品戦略部の塚本有記氏は「プロである精神科医も震災体験者への対応を知ることで、より質の高い医療ができる」という。

製薬企業は普段から命・健康を守り、人々の生命維持を使命と考えるマインドが非常に高い。製薬企業だからこそできることを見つけ、一人でも多くの心をケアしようと、これからも支援は続く。

こころのケア支援プロジェクトの講演会
にはさまざまな分野の医療従事者が参加

Eisai　hhc human health care

患者様の想いを見つめて、
薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。
病気とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。
私たちは、医師のように患者からお会いすることはできませんが、
そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合っていたいと思います。
治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。
病気を見つめるだけではなく、想いを見つめて、薬は生まれる。
「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業　エーザイ

エーザイはWHOのリンパ系フィラリア排除活動を支援しています。

いままでなかった薬が、
いままでなかった笑顔をつくる。

新しい薬が生まれることは、
病気に立ち向かう勇気が生まれること。
わたしたちは、高血圧、感染症、
コレステロール治療の分野で培った
薬を創る力をもとに、認知症、ガン、血栓症など、
新たな取り組みをはじめています。
ひとつの有効な薬が、たくさんの人に
笑顔を届けることを信じて。
イノベーティブ医薬品（新薬）から、
OTC（一般用医薬品）、
エスタブリッシュト医薬品※、そしてワクチンまで。
4つの領域から、多様な医療ニーズにこたえていく。
第一三共の挑戦は、続きます。

つくっているのは、希望です。
Daiichi-Sankyo　第一三共株式会社

www.daiichisankyo.co.jp

※有効性、安全性、使用法が確立され、長きにわたり医療に貢献している医薬品の総称です。